

さくらインターネット株式会社（3778） 2012年3月期第2四半期 決算説明会

代表取締役社長 田中邦裕

2011年10月25日

さくらインターネット株式会社

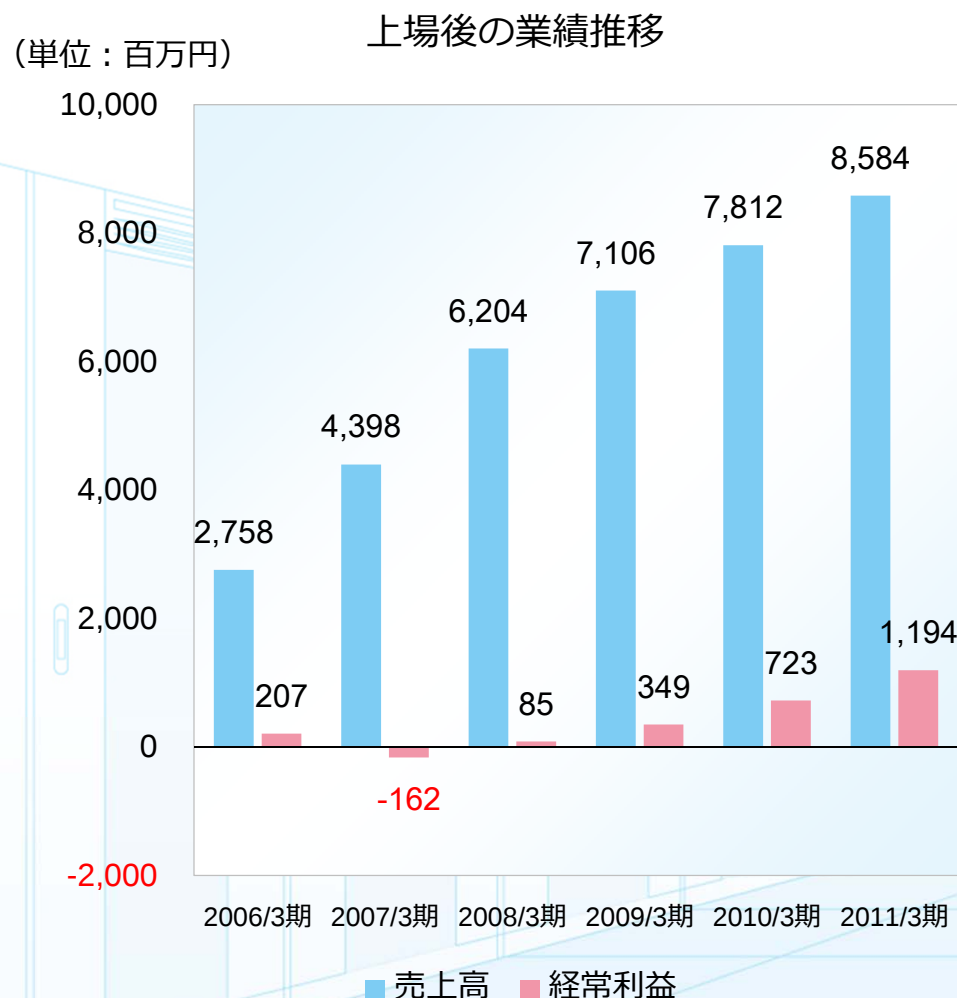
(C)Copyright 1996-2011 SAKURA Internet Inc.

I.	さくらインターネットについて	・ ・ ・ ・	P.3
II.	業績概要	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	P.6
III.	今後の展望	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	P.15
付録		・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	P.28

I. さくらインターネットについて

1. 会社プロフィール

- 2005年10月に東証マザーズへ上場し、事業成長を続ける



商 号	さくらインターネット株式会社
本 社 所 在 地	大阪市中央区南本町一丁目8番14号
設 立 年 月 日	1999年8月17日 (サービス開始は1996年12月23日)
取 締 役	代表取締役 社長 田中 邦裕 取締役 副社長 舘野 正明 取締役 川田 正貴 取締役 村上 宗久 取締役 (社外) 瓦谷 晋一
上 場 年 月 日	2005年10月12日 (東証マザーズ)
決 算	3月末日
資 本 金	8億9,530万円
従 業 員 数	176名

(※2011年9月30日現在)

2. 事業ドメイン

- 国内インターネットの黎明期から、コロケーションとホスティングの双方を提供

コロケーション

利用者が所有する通信機器類（サーバなど）を、サービス提供者のデータセンターに設置し、インターネット接続に必要な回線や電源などが利用できるサービス

オープン
スペース
単位

個室
(ケージ)
単位

ラック単位
ハウジング
サービス



・・・当社が提供しているサービス（予定も含む）

ホスティング

サービス提供者の通信機器類（サーバなど）を、インターネット上で利用するサービス

仮想サーバ

クラウド
ホスティング
**IaaS
サービス**

VPS
ホスティング
**VPS
サービス**

物理サーバ

専有
ホスティング
**専用サーバ
サービス**

共有
ホスティング
**レンタルサーバ
サービス**

II.業績概要

1. サマリー

(金額：百万円)

科目名	2011/3期 Q2累計	2012/3期 Q2累計		前年同期比		予実比	
	(実績)	(当初予想)	(実績)	(増減額)	(増減率)	(差額)	(達成率)
売上高	4,211	4,600	4,542	331	7.9	-57	-1.2
営業利益	654	520	567	-87	-13.3	① 47	9.2
対売上高比率	15.5	11.3	12.5				
経常利益	646	500	539	-106	-16.5	39	7.8
対売上高比率	15.3	10.9	11.9				
四半期純利益	298	280	365	66	22.4	② 85	30.6
対売上高比率	7.1	6.1	8.1				

※対売上高比率、増減率、達成率の単位は%

<主な要因>

- ① 第2四半期累計期間で予定していた経費の発生の一部が、第3四半期以降に繰延
- ② 新株予約権戻入益の計上

2. 損益計算書（四半期推移）

（金額：百万円）

科目名	2011/3期				2012/3期		前四半期比較	
	Q1会計	Q2会計	Q3会計	Q4会計	Q1会計	Q2会計	増減額	増減率
売上高	2,094	2,117	2,157	2,215	2,272	2,270	-1	-0.1
売上総利益	706	714	698	696	736	660	① -75	-10.3
対売上高比率	33.8	33.8	32.4	31.4	32.4	29.1		
営業利益	314	340	291	279	310	257	-52	-16.9
対売上高比率	15.0	16.1	13.5	12.6	13.6	11.3		
経常利益	309	336	277	271	299	239	-59	-19.9
対売上高比率	14.8	15.9	12.9	12.2	13.2	10.6		
四半期純利益	108	190	160	113	229	136	-92	-40.3
対売上高比率	5.2	9.0	7.4	5.1	10.1	6.0		

※対売上高比率、増減率の単位は%

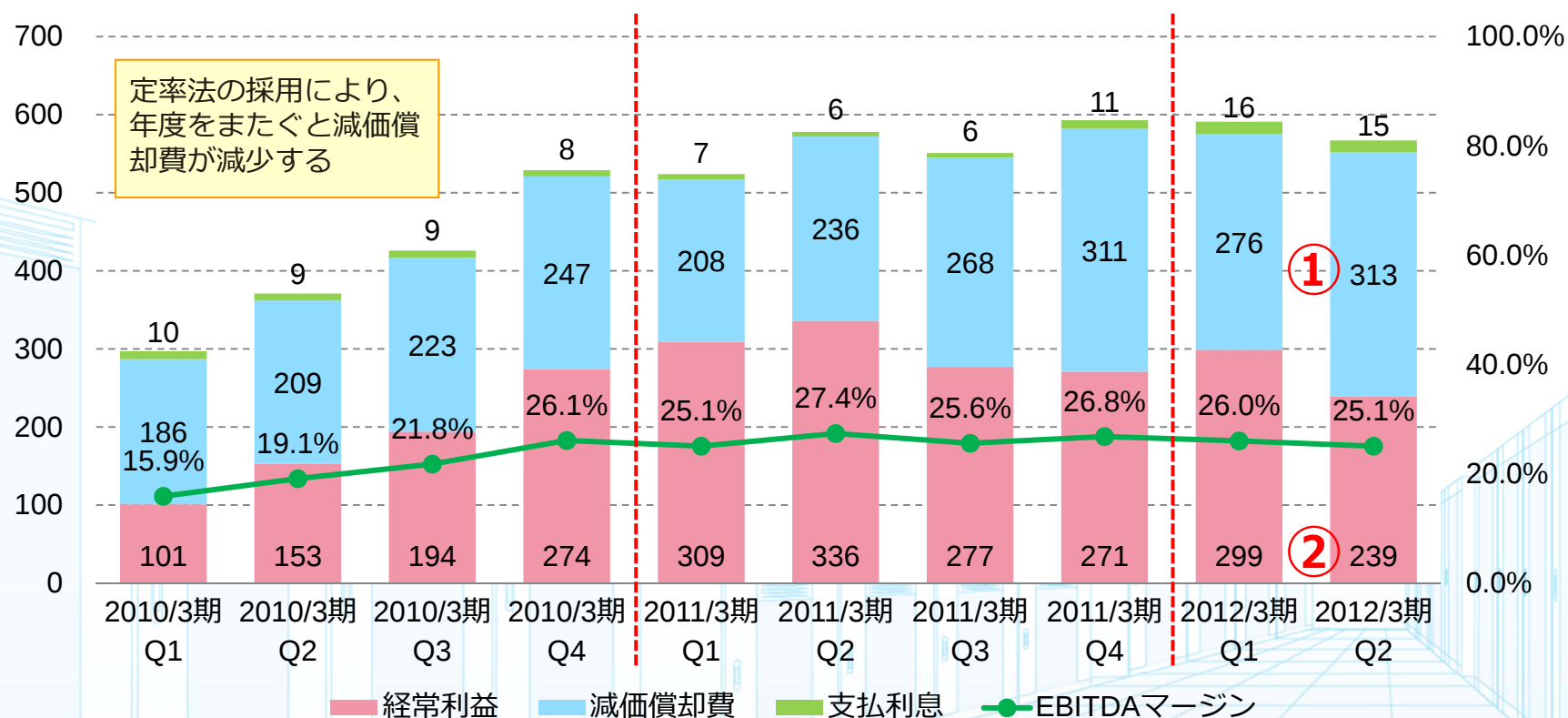
<主な要因>

- ① 堂島データセンターの設備強化（ラックやサーバなどの調達）により、減価償却費と賃借料が増加

3. EBITDA（四半期推移）

(単位：百万円)

EBITDA 四半期推移



(※) EBITDAマージン = (経常利益 + 減価償却費 + 支払利息) ÷ 売上高

<主な要因>

- ① ラックやサーバの調達により、固定資産が増加 → 減価償却費 ↑
- ② 堂島データセンターの設置設備数が増え、賃借料が増加 → 経常利益 ↓

4. サービス別売上高（四半期推移）

（金額：百万円）

科目名	2011/3期				2012/3期		前四半期比較	
	Q1会計	Q2会計	Q3会計	Q4会計	Q1会計	Q2会計	増減額	増減率
ハウジング	750	758	754	756	757	744	-12	-1.7
対売上高比率	35.8	35.8	35.0	34.1	33.3	32.8		
専用サーバ	772	788	798	① 825	821	817	-4	-0.5
対売上高比率	36.9	37.2	37.0	37.2	36.2	36.0		
レンタルサーバ	344	361	375	388	404	420	② 16	4.0
対売上高比率	16.4	17.1	17.4	17.6	17.8	18.5		
VPS		0	10	25	67	74	6	9.7
対売上高比率		0.0	0.5	1.1	3.0	3.3		
その他	227	208	218	219	221	213	-7	-3.4
対売上高比率	10.8	9.8	10.1	9.9	9.7	9.4		

※対売上高比率、増減率の単位は%

<主な要因>

- ① 「さくらのVPS」や他社クラウドとの競合
- ② 「さくらのマネージドサーバ」上位プランの好調な受注

5. 貸借対照表

(金額：百万円)

科目名	2011/3期 Q4末	2012/3期 Q2末	増減額	科目名	2011/3期 Q4末	2012/3期 Q2末	増減額
流動資産	4,714	3,647 ^①	-1,066	流動負債	3,683	3,656	-27
固定資産	5,094	6,494	1,399	固定負債	3,841	3,937	96
(有形固定資産)	4,464	5,757 ^②	1,292	負債合計	7,525	7,594	69
(無形固定資産)	129	258	129	純資産	2,284	2,547	263
(投資その他資産)	500	477	-22	(株主資本)	2,225	2,547 ^③	322
資産合計	9,809	10,142	332	負債純資産合計	9,809	10,142	332

<主な要因>

- ① 設備投資に係る債務の支払による現預金の減少
- ② 石狩データセンターの建設仮勘定の増加
堂島データセンターの拡張したフロアに設置した器材の増加
- ③ 利益の積立て

6. キャッシュ・フロー計算書

(金額：百万円)

科目名	2011/3期				2012/3期		前四半期 増減額
	Q1会計	Q2会計	Q3会計	Q4会計	Q1会計	Q2会計	
営業CF	493	503	567	640	297	505	① 207
投資CF	-271	-238	-639	-1,426	-1,516	-340	② 1,176
営業CF－投資CF	222	265	-72	-785	-1,219	164	1,383
財務CF	-165	-143	249	2,955	-191	-125	65
現金等の増加額	56	122	177	2,169	-1,408	34	1,443
現金等の残高	1,228	1,351	1,528	3,698	2,289	2,323	

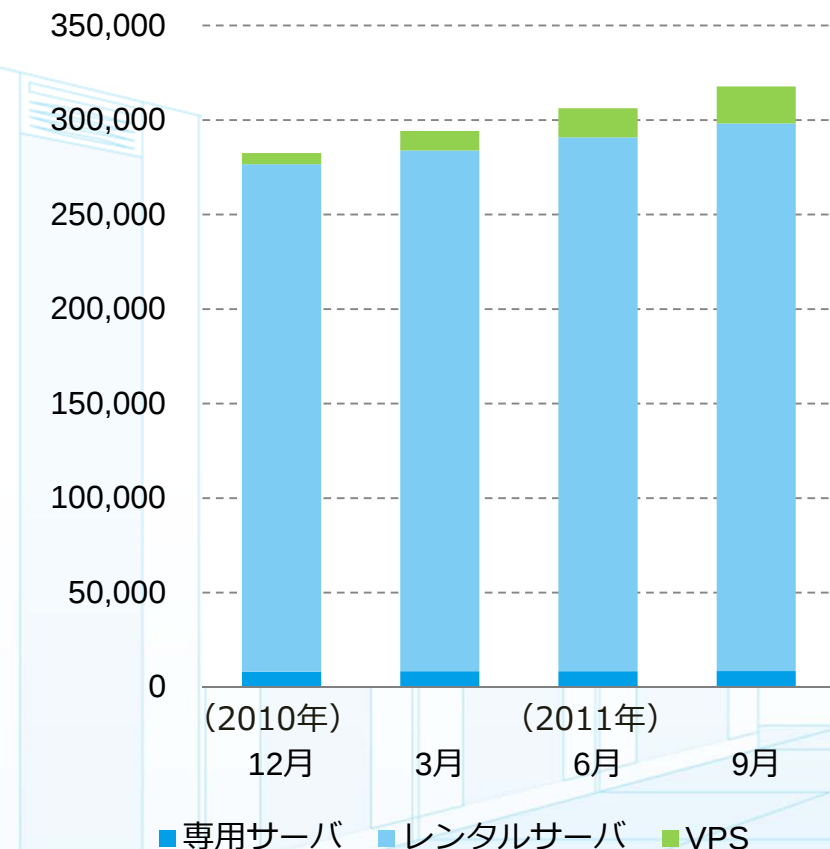
<主な要因>

- ① 第1四半期の納税（約4.7億円）による影響
- ② 第1四半期の設備投資（石狩データセンターや堂島データセンターなど）による影響

7. 事業指標

- 顧客基盤の拡大とともに、小口顧客の売上構成比が高まり、大口顧客の解約による**事業リスクが低減**

ホスティング 利用中件数
(単位：件数)



月額料金別 売上構成比

	09年9月度	10年9月度	11年9月度
10万円未満	34.3%	36.8%	40.2%
10万円以上 100万円未満	25.9% (625社)	25.3% (643社)	22.0% (635社)
100万円以上 1,000万円未満	25.5% (72社)	26.8% (67社)	25.0% (71社)
1,000万円以上	14.2% (5社)	11.1% (4社)	12.7% (6社)

(※) 括弧内は事業者数

8. 2011年7月～9月の主なトピック

ITインフラ

- 石狩データセンター、**世界最高水準のエネルギー効率**（※）が評価され、『CEDEC AWARDS』ネットワーク部門優秀賞を受賞
（※）実機レベルで給電システムを検証した結果、総合効率90.394%を達成）
- 堂島データセンター、
「さくらのVPS」の好調な受注を受けて、**サーバラックを増設**

事業サービス

- 「さくらのマネージドサーバ」、
従来プランの**約3割増しの性能**を持つ『Core i5プラン』を提供開始
- 「さくらのクラウド」、一部ユーザーに対して**βサービスを提供**
- 「さくらのレンタルサーバ」、データベース機能を強化
（料金据え置きで、**パフォーマンスは5倍以上**に向上）

財務・資本

- 当社株式が『**東証マザーズCore指数**』の構成銘柄に選定
- 株式分割（**1対200**）の実施と単元株制度（売買単位100株）の採用

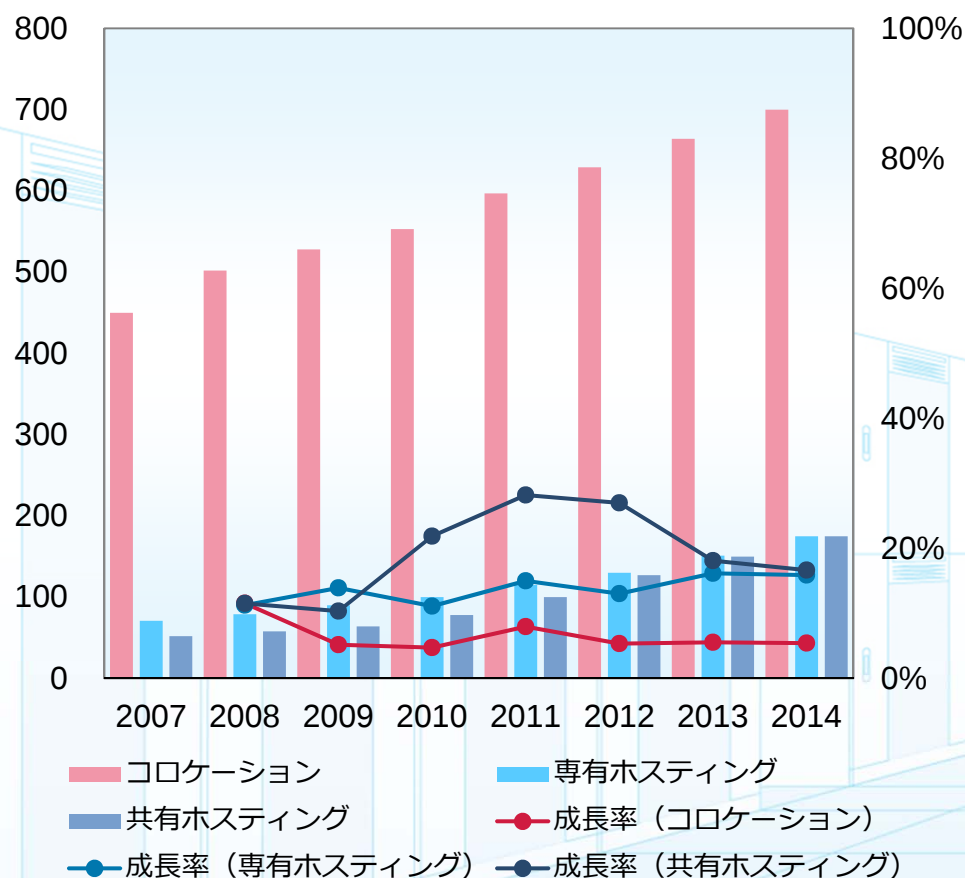


III. 今後の展望

1. 市場環境

データセンター専門事業者の
インターネットデータセンター市場
セグメント別売上予測

(単位：億円)



出典：IDC Japan 「国内インターネットデータセンター市場 2010年の実績と2010年～2014年の予測」 (J11030104：2011年9月)

需要動向

ITコストの
削減

IT資産の
オフバランス

BCP/DR対策



初期費用負担の
軽減

「所有」から
「利用」へ

「都心」から
「郊外」へ

供給動向

東日本大震災

外国企業の
日本進出

新規参入企業の
増加



電力供給問題
(関東・関西圏)

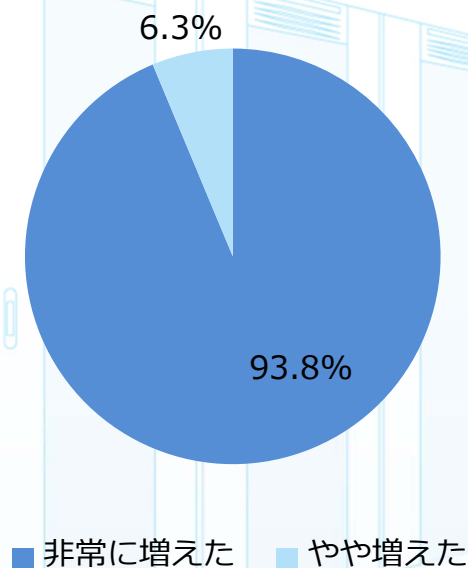
価格競争の更なる激化
(コモディティ化)

1. 市場環境

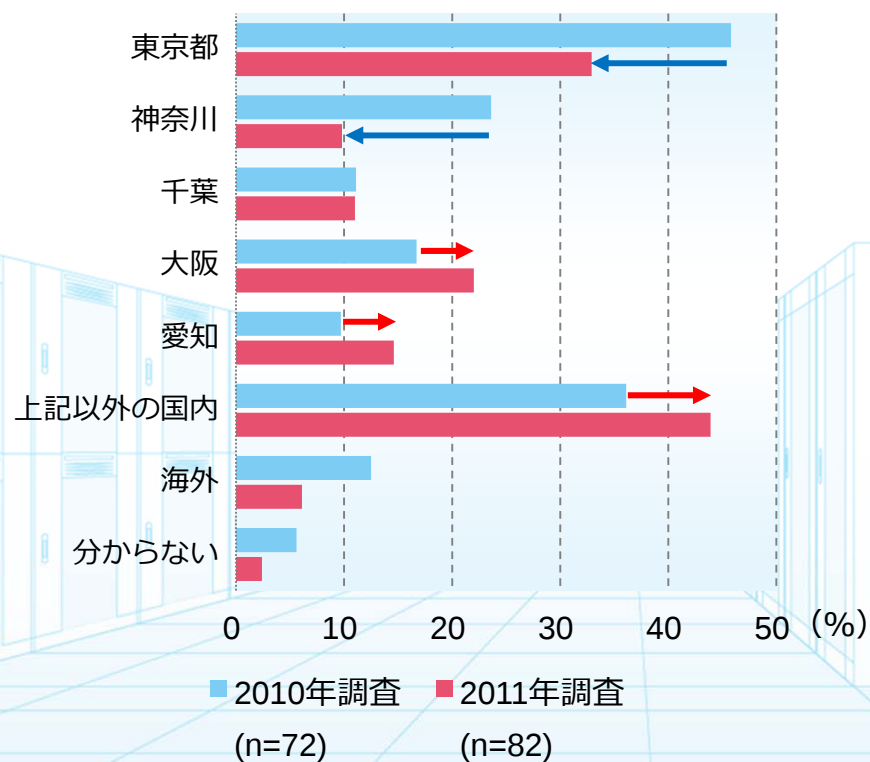
- 震災後、データセンターへのアウトソーシング需要が高まり、**都市型から郊外・地方型のデータセンターに注目**が集まる

データセンターアウトソーシング事業者
における災害対策案件の増加
(2011年4月末時点)

Q「東日本大震災を契機として、災害対策に関連する
ユーザー企業からの問い合わせや受注が増えました
か？」(n=16)



変更先データセンターの立地候補
(コロケーション、2010年調査との比較)



出典：IDC Japan「国内データセンターアウトソーシング市場における東日本大震災の影響：事業者アンケートから分かったこと」(J11250151：2011年6月)、「国内インターネットデータセンター市場 2010年の実績と2010年～2014年の予測」(J11030104：2011年9月)

石狩データセンターの稼働

ITインフラ

エンタープライズ市場の開拓

事業サービス

クラウドサービスの提供

事業サービス

新世代専用サーバサービスの提供

事業サービス

① 石狩データセンターの稼働

- 国内最大級の郊外型大規模データセンターを、**災害リスクの低い石狩市**（北海道）に建設

施設名	石狩データセンター
建設地	北海道石狩市
敷地面積	51,448㎡ ※最大8棟まで増築可能
建物構造	地上2階建・鉄骨造
建築面積	7,116㎡（2棟）
延床面積	11,417㎡（2棟）
ラック数	1,000ラック（1棟500ラック） ※初期は200ラックで稼働 ※最大4,000ラックまで増設可能
供給電力	標準8kVA/ラック ※最大15kVA/ラック
設計施工	大成建設株式会社
稼働開始時期	2011年11月中旬

第1期工事・設備投資額

- ◆ 土地 … 375 百万円
- ◆ 建物・附属設備 … 3,225百万円

※ 「工具、器具及び備品」については、今後のサービス戦略によって、購入する器材や調達時期が異なるため、表記しておりません。



▲ 完成間近の石狩データセンター外観
（2011年10月11日撮影）

- ・ 寒冷地の郊外型大規模データセンターである特性を活かし、運用コストと初期投資コストを低減

運用コストの低減

- ① 世界最高水準の**エネルギー効率**
 - ✓ 外気冷房（空調消費電力約90%削減）
 - ✓ 高電圧直流システム（最大約20%の電力量削減）
- ② 国内最大級施設による**スケールメリット**
 - ✓ 共用設備の効率的な活用と、運用保守スタッフの生産性向上
- ③ 負担の大きい**賃借料がゼロ**
 - ✓ 都市と比べて地価が低いため、施設用地の自社所有が可能

初期投資コストの低減

- ① **必要設備数の低減**
 - ✓ 従来のデータセンターより、大幅に電気量が削減できるため、主要設備の必要数が減少
- ② **機動的な設備投資が可能**
 - ✓ 需要動向に応じて、段階的な設備投資が可能な立地環境と施設設計

◆西新宿データセンター

電気・空調関連初期投資：約11.6億円
最大設置可能ラック台数：500台

◆石狩データセンター（第1期）

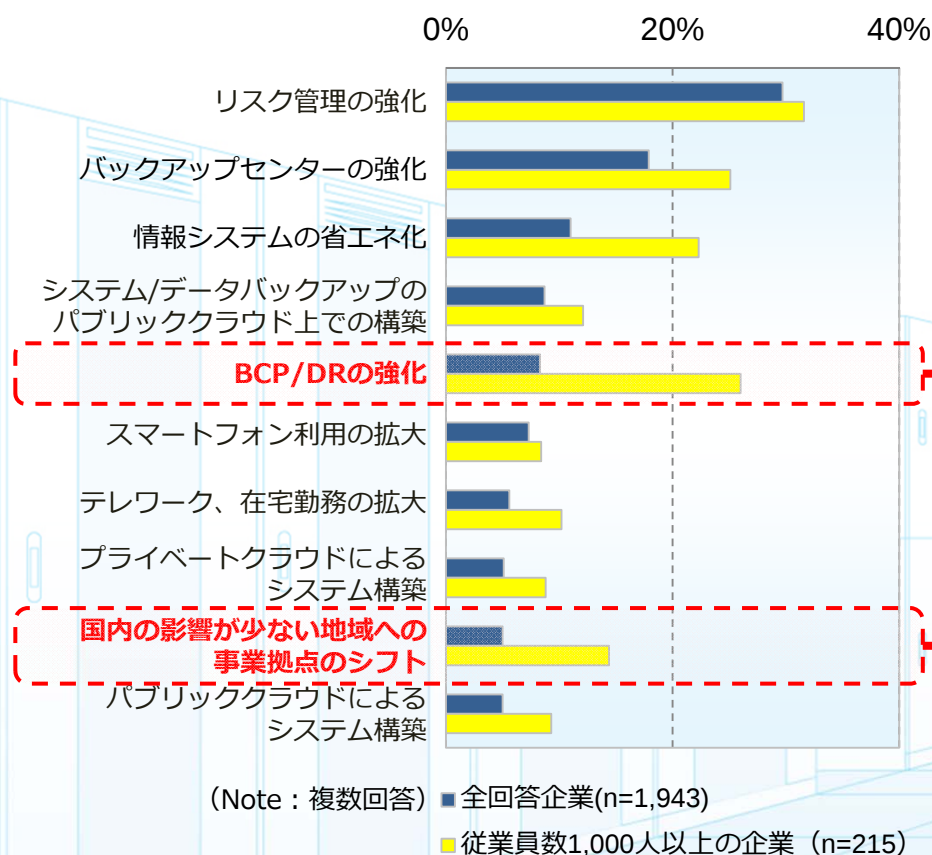
電気・空調関連初期投資：約13.5億円
最大設置可能ラック台数：1,000台

世界標準のコスト競争力を獲得

① 石狩データセンターの稼働

- コロケーション（ハウジングサービス）も提供し、**拡大するBCP/DR需要を吸収**

< 東日本大震災の影響によって高まった意識：上位10項目 >



災害リスクの低い、 国内では希少な建設用地

① 地震発生リスク

- ✓ 今後30年間 震度6弱以上の地震が発生する確率は、0.1~3.0%

② 津波リスク

- ✓ 建設地の属する地域に到達する津波の最高点は、4.7mの見込み（建設地の地盤高は5.5m~）

③ 液状化リスク

- ✓ 液状化が発生する確率は低く、仮に発生しても影響は限定的（石狩データセンターは二層構造で、建物重量も比較的軽い）

② エンタープライズ市場の開拓

- 双日グループとの協業により、ITトータルソリューションの**インフラ（データセンターサービス）を提供**

課題

ITエンジニアへの認知度は高いものの、一般企業の経営者等へのブランド浸透は不十分

解決策

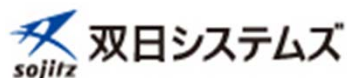
双日グループとの共同営業体制を確立し、大手総合商社のブランド力を活用



- 各種データセンターサービスの提供



- IT機器の提供
- IT基盤の構築、保守、運用、監視



- システムやネットワークの設計、開発、運用・保守

ITトータル
ソリューション



- 官公庁
- 一般企業 など

※（ニュースリリース）
双日、データセンター事業を拡大
～地方分散型データセンター需要に対応したエンタープライズ向けデータセンター事業に参入～
<http://www.sojitz.com/jp/news/releases/20111004.html>

③ クラウドサービスの提供

- 世界標準のサービス競争力を備えた「さくらのクラウド」

圧倒的なコストパフォーマンス

- 高品質なサービスを、**世界標準のロープライス**で提供

高い柔軟性と拡張性

- わずか**数十秒**で、サーバやストレージ、ネットワークの追加が可能

確かな信頼と実績

- インターネット黎明期から、データセンターサービスを高品質・低価格で提供し続けた実績
- VPSサービスの提供で培った、**仮想化技術の運用ノウハウ**
- 国内トップのバックボーンネットワーク容量により、利用者の高速アクセスを保証

ITエンジニアのツボをくすぐる機能・仕様

- 利用者が、サーバやネットワークを**自由に設計でき、実現できる**
- ITエンジニアが管理・運用しやすい機能（API、コントロールパネルなど）
- 「使いたい分だけ払う」予算化がしやすい課金制度（日割計算にも対応）



③ クラウドサービスの提供

- 世界標準のサービス競争力を実現した、さくらインターネットの底力

✓ 世界標準の価格設定を実現できる土壌

- サービス運用コストの大幅な圧縮を実現する**石狩データセンター**
- 高額な**ライセンス費用をカット**
 - オープンソースを活用し、サーバの仮想化に必要なシステムを自社で開発
- ITエンジニアへのブランド認知度が高く、**顧客獲得コストが低い**



▲ ITエンジニアとの懇親会
(さくらのタベ)

✓ 価値あるサービスを実現できる土壌

- 自社研究機関（さくらインターネット研究所）にて、**最新ネットワーク技術の応用と設計に成功**
- ITエンジニア（顧客・潜在顧客）との活発な意見交換や情報公開などにより、**企業のIT担当者が本当に必要とする真のニーズを吸収**



▲ ツイッターやブログを
活用した情報発信

④ 新世代専用サーバサービスの提供

- クラウドサービスとの高い親和性を実現する『**専用サーバを超えた専用サーバ**』を提供

基本仕様・スペックのグレードアップ

- CPUやメモリ、HDD容量の基本仕様は、**従来プラン**（ベーシック）**から2倍以上**にグレードアップ
- 最大メモリ128GB・最大HDD容量24TBなど、ハイエンドユーザーのニーズにも応える**幅広いカスタマイズレンジ**

柔軟性・拡張性の向上

- クラウドサービスに匹敵する柔軟性と拡張性

価格ラインナップの拡大

- スタートアップ企業から大規模なITリソースを必要とする企業まで利用できる価格ラインナップに大幅変更

さらなる即納性の追求

- 申込みから**最短1時間**で、サービス利用が可能



3. 2012年3月期 通期見通し

- ・ 売上高は、ほぼ計画どおりの進捗
- ・ 第3四半期から石狩データセンターの運用コストが計上されるため、通期の利益率は第2四半期累計期間の利益率と比較して減少する見通し

(金額：百万円)

科目名	2011/3期 通期（実績）	2012/3期		前期比	
		Q2累計（実績）	通期（予想）	増減額	増減率
売上高	8,584	4,542	9,400	815	9.5
営業利益	1,225	567	740	-485	-39.6
対売上高比率	14.3	12.5	7.9		
経常利益	1,194	539	700	-494	-41.4
対売上高比率	13.9	11.9	7.4		
当期（四半期）純利益	572	365	400	-92	-16.2
対売上高比率	6.7	8.1	4.3		

※対売上高比率、増減率の単位は%



※ 当資料に掲載されている業績予想などは、資料作成時点における弊社の判断に基づいており、その情報の正確性を保証するものではありません。
さまざまな要因により、当資料記載の業績予想とは異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

■ IRに関するお問い合わせ先

さくらインターネット株式会社 東京支社

Tel : 03-5332-7077
E-mail : ir@sakura.ad.jp
担当 : 岡本

付録

自前でITリソース（ソフトウェアや開発ツール、サーバなど）を所有していなくても、インターネット上でオンデマンドに利用できるサービスを、クラウドと言います。

インターネットに接続できる環境があれば、世界中のどこからでもクラウドにアクセスして、ITリソースを必要な時に、必要な量を利用することができます。身近なクラウドサービスとして、Webメールやオンラインストレージなどがあります。



事業環境の変化に素早く対応できる体制を目指し、企業はIT資産の柔軟性や投資コストの削減、アウトソーシングニーズが高まりました。これらの需要を受け、ネットワークの高速化や仮想化技術の発展といった供給側の技術革新もあり、クラウドが生まれました。

利用者側の需要動向

✓ IT資産の柔軟性

例) ニュースで自社運営サイトが紹介された。アクセスの負荷分散のため、サーバを急いで増やしたい。

✓ 投資コストの削減

例) スマートフォンアプリを開発したが、まとまった資金が無い。少額から利用できるITインフラが欲しい。

✓ アウトソーシングニーズの高まり

例) 自社スタッフで最新のIT技術をキャッチアップし続けるのは大変。ITの運用・管理は専門業者に任せたい。



供給側の技術革新

✓ ネットワークの高速化

2010年末の国内ブロードバンド契約数は、3,459万件と年々増加している

(出典：総務省/平成23年版「情報通信白書」)

✓ 仮想化技術※の発展

KVMなど、オープンソースの仮想化技術が登場

CHECK!

※ 仮想化技術とは、物理的な制約にとらわれず、ITリソースを柔軟に活用することができる技術のこと。

この技術を活用すると、複数台の物理サーバを巨大な1台の仮想サーバとして機能させたり、1台の物理サーバを複数台の仮想サーバに分割させることができる。



クラウドを導入することで利用者が得られるメリットは、「投資・運用コストの削減」や「事業効率の向上」などがあります。

投資・運用コストの削減

- ✓ ソフトウェアやハードウェアの購入費が不要 **(初期投資不要)**
- ✓ サービス提供者の充実したインフラを安価で利用できる **(スケールメリットの享受)**
- ✓ 料金は使う分だけ支払えば良いので、ムダなコストが発生しない **(予算化しやすい料金体系)**

事業効率の向上

- ✓ ITの複雑な運用・管理は、サービス提供者にお任せ **(企業リソースの集中)**
- ✓ 申込み後、数十分で新しくサービスが利用でき、拡張も可能 **(事業スピードの向上)**
- ✓ IT資産をオフバランス化できる **(資産効率アップ)**

クラウド利用に適したユーザ像



顧客にWeb上で利用できる会計ソフトを提供しよう！

(悩み1)

どれだけ提供ソフトを使ってもらえるかが分からない

(悩み2)

資金に余裕はなく、初期投資や毎月の支払は抑えたい

クラウドなら…

→ **リソースの拡張・縮小が
すぐできる！**

→ **初期投資は不要！使わない
リソースへの支払もナシ！**

「IaaS」とは？

「IaaS」とは、サーバやネットワーク、ストレージといったITインフラを、クラウドで利用するサービスのことです。他のクラウドと同様、必要な時に、必要なリソース量を利用することができます。料金も使う分だけ支払えば良く、ムダなコストが発生しません。

